

NEWS23 週刊報告 ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)

対象期間：6/24～6/28

・ 6/24(月)

国会、トランプとイランなどについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、放送法上は特に問題は見られませんでした。また、国会については検証者の所感を記しました。

・ 6/25(火)

トランプ大統領が日米安保破棄に言及か、内閣不信任案否決、丸山穂高議員が一月ぶりに国会に、米中首脳会談などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、トランプ大統領が日米安保破棄に言及か、内閣不信任案否決については放送法上問題と考えられる点が見られました。またトランプ大統領が日米安保破棄に言及かについては検証者の所感を記しました。

・ 6/26(水)

7月21日投開票の参院選へなどについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、7月21日投開票の参院選へについては放送法上、問題と考えられる点が見られました。

・ 6/27(木)

大阪 G20、米中貿易摩擦などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、大阪 G20 については放送法上問題と考えられる点が見られました。

・ 6/28(金)

G20 大阪サミット、日米首脳会談などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、特に問題は見られませんでした。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年6月24日
出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕 ゲスト：若狭勝（元検事の弁護士）		
検証テーマ：国会、トランプとイラン		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お笑い芸人 13 人を闇営業で謹慎処分 ・神奈川県で逃走男を逮捕 ・逃走事件で注目される「保釈」 ・国会 ・トランプとイラン ・元俳優の黒木辰哉容疑者が窃盗の疑いで逮捕 ・中国南西部で大雨 ・大分県で交通事故 ・ミニストップでレジ袋有料化 ・東京年大学教授が覚せい剤所持の疑いで逮捕 ・日産のゴーン被告とケリー被告の公判前整理手続 ・スポーツ報道 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国会：結論→特に問題なし 国会について以下に朱記した VTR が取り上げられていた。 <p>ナレ「参議院では今日午後、安倍総理の問責決議案を採決する本会議が開かれました。」</p> <p>白眞勲「この安倍政権で起きた様々な問題はまさに長期政権のおごりや緩みから生じたものと言わざるを得ません。そこに本質的な問題があるのではないのでしょうか。」</p> <p>ナレ「老後の資金は 2000 万円必要とした金融庁の報告書、これを受け取らなかった麻生財務大臣についての安倍総理の任命責任をどう、などと野党側は主張しました。」</p> <p>"ナレ「これに対し、与党側は、」</p> <p>三原じゅん子「問責決議案を提出するなど、全くの常識はずれ、愚か者の所業としか言いようがありません、恥を知りなさい。」 "</p> <p>"ナレ「そして、」</p> <p>議長「よって本決議案は否決されました。」</p> <p>ナレ「決議案は与党などの反対多数で否決されました。」 "</p> <p>"ナレ「一方、」</p> <p>福山哲郎「衆参ともに問責決議案、不信任案を提出することで野党側の安倍政権に対する意思を明確にするべきだ。」</p> <p>ナレ「野党側は内閣不信任案の提出を調整しており、明日、野党党首会談で正式決定し、提出される見通しです。」</p>		

"

"ナレ「安倍総理は解散は頭の片隅にもないとして、解散総選挙を見送る考えを示していますが、菅官房長官は。」
記者「長官これまで内閣不信任案の提出は解散の大義になりうるという認識を示されてこられましたけれど、この考えというのは今も変わらないのでしょうか。」

菅官房長官「あの、解散については従来申し上げてきたとおりであり、

ナレ「改めてこのように述べ、野党側を牽制しました。」

ナレ「明後日の国会の会期末に向け、与野党の攻防が最終局面を迎えています。」"

またスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り返された。

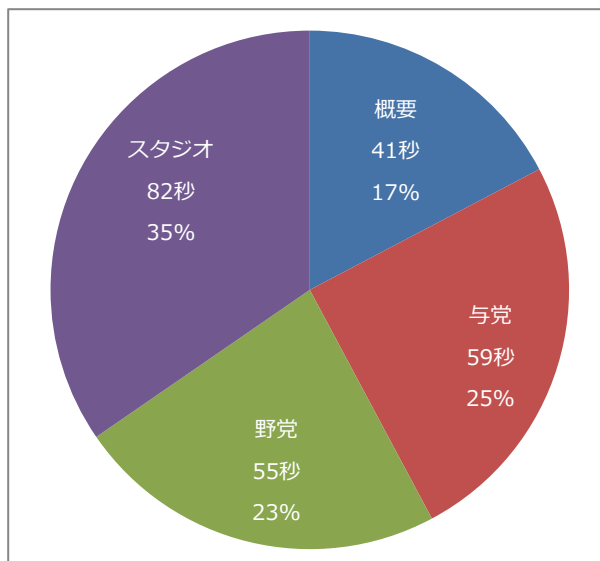
"小川彩佳「明後日の会期末を控えて野党側は、まあ首相の問責とそして明日、内閣不信任案を提出するという流れのようですね、」

星浩「まあ今回ね、その予算委員会を開かなかつたり、年金報告書の扱いなど攻めどころはいっぱいあったんですけども、結局なかなか攻めきれないまま、ということですね。野党の結束を確認する、まあ戦う姿勢を確認するという点で、まあ問責とか不信任案というのはありましたけれども結局政府与党を揺さぶるまでには至らなかったという感じですね。」

小川彩佳「うーん、自民党は野党が衆議院の解散がなさそうだから内閣不信任案を出すというふうに表現していますけれども、これはどういうことでしょうか。」

星浩「そうですね、ちょっと入り組んでいますけれども野党側からすると解散がなしですので不信任案を出しても否決してそれで終わりというふうに見越してやっているんでしょう。実はね、衆議院の選挙区ってのは289ありましてね100箇所くらいはもう大接戦選挙区なんです。本来であれば野党は100箇所にも強力な候補者をたてて不信任案を突きつけて解散で一勝負ということなんでしょうけれどもどうも今回そこまで準備ができていなかったというのが真相なんです。ですから野党側はこれから参議院選挙が始まっているいろいろな論戦が続きますけれどもそれと並行してね、やはり衆議院選挙に向けた準備を急ぐ必要があると思いますね。」"

このトピックに当てられた時間は237秒で、概要を説明した場面、与党側の動きを取り上げた場面野党側の動きを取り上げた場面、スタジオでのやり取りに大別されそれぞれの時間配分は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

- ・ トランプとイラン：結論→特に問題なし

23日放送のテレビインタビューでトランプ大統領は前提条件なしでのイランとの各交渉に意欲を示しつつも戦争になれば破壊を見ることになる、と警告し、イランに譲歩を求めたこと、月曜日に発動するとしたイランへの追加制裁の具体的な内容は明らかになっていないが、トランプ政権は軍事的手段も選択肢だと強調するなど硬軟織り交ぜる形でイランに交渉のテーブルに付くよう迫っているとのことが報じられた。このトピックに当てられた時間は74秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし

検証者所感

- ・ 国会

スタジオで星キャスターが「その予算委員会を開かなかつたり、年金報告書の扱いなど攻めどころはいっぱいあったんですけども、結局なかなか攻めきれないまま、ということですよ。」とコメントしていたが、なぜ野党側が攻めることができなかったのだろうか。つまるところ金融庁の年金報告書などは本格的に議論した場合野党側の政策論にとっても不利に働き得るなどの理由があったからではというようにも見えてしまう。

ところで、今日はスタジオの若狭勝弁護士が出演していたが、若狭氏がコメントをしたトピックは芸能人の闇営業の法律的な問題や保釈制度についてであって、国会については若狭氏はノーコメントであった。

若狭氏が政界への復帰を考えているのかどうかはわからないが、せっかく元国会議員で政策論争や与野党の妥協の現場を見てきた人間がいるのだから、国会を取り上げたトピックでスタジオで議論をするなら若狭氏にもコメントを求めても良かったのではないだろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年6月25日
出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕		
<p>検証テーマ：トランプ大統領が日米安保破棄に言及か、内閣不信任案否決 丸山穂高議員が一ヶ月ぶりに国会に、米中首脳会談</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランプ大統領が日米安保破棄に言及か ・内閣不信任案否決 ・名古屋市2人刺殺の容疑者を逮捕 ・ニュース砂漠 ・日産株主総会 ・丸山穂高議員が一ヶ月ぶりに国会に ・群馬県で女子生徒を監禁した教員を逮捕 ・米中首脳会談 ・神奈川県逃走犯事件 ・スポーツ報道 ・【異論反論】#若者の新聞離れ ・天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トランプ大統領が日米安保破棄に言及か：結論→放送法上問題あり トランプの発言を巡って以下に朱記したVTRが取り上げられていた。 <p>"トランプ大統領「イランの最高指導者らに厳しい制裁を科す大統領令に署名する。」 ナレ「トランプ大統領は24日、アメリカ軍の無人偵察機の撃墜を含むここ数週間のイラン政府による攻撃的な行動への対抗措置として最高指導者、ハメネイ師らを対象にアメリカ国内の資産凍結など新たな制裁を命じる大統領令を発表しました。イランとの対立が深まる中トランプ氏のある発言を伝えた報道が波紋を広げています。」</p> <p>"トランプ大統領「日本が攻撃された際にはアメリカ軍を支援することを約束しているのに自衛隊がアメリカの防衛を義務付けられていないのはあまりにも一方的だ。」 ナレ「アメリカのブルームバーグ通信は24日、三人の関係者の話として最近トランプ氏が側近との指摘な会話の中で日米安全保障条約の破棄に言及したと報じたのです。また、トランプ大統領は日米が合意した沖縄の普天間基地の辺野古移設についてもアメリカ軍の土地を日本が奪おうとしていると見なし、移設にあたって金銭的な保証を求める考えを示したとも伝えられています。先月、令和初の国賓として日本を訪れた際、トランプ氏は。」 トランプ大統領「日米同盟はかつてないほど強固だ。」"</p> <p>"ナレ「トランプ氏の真意、そして狙いはどこにあるのでしょうか。」 中林美恵子「相手の弱点を掴むのが天才的にうまいということがわかっていたんですが、日本の弱点は何かとい</p>		

うとやはり安全保障なんですね、弱点をこのように指摘してなにか欲しいものがある、G20の議長国として米に対するもっと付度をきかせよということかもしれませんし、通商交渉などで大きな譲歩を引き出したい、そういうことかもしれません。」

"ナレ「トランプ大統領は過去に強引な手法で交渉を優位に進めたことがあります。」

トランプ大統領「新たな米艦貿易協定には我が国の貿易赤字を削減し、アメリカ製品を韓国に輸出する機会を広げるといふ大きな改善点が含まれる。」

ナレ「トランプ氏は去年、韓国とのFTA自由貿易協定の再交渉において交渉が不調に終われば在韓米軍を撤退する可能性を示唆しわずか3ヶ月でのスピード合意にこぎつけたのです。そのトランプ氏は24日、日本のタンカーなどがホルムズ海峡付近で攻撃を受けたことを念頭に、ツイッター上でこんなつぶやきを。」

トランプ大統領 (Twitter) 「なぜアメリカが見返りなしに (日本・中国など) 他国のために輸送路を守るのかすべての国々は自分たちで船を守るべきだ。」

"ナレ「一方、菅官房長官はトランプ氏が日米安全保障条約の破棄に言及したとアメリカの通信者が報じたことについて。」

菅官房長官「ご指摘の報道にあるような話は全くありません、米国の大統領からも米国政府の立場と相容れないものであるという確認を受けております。」

中林美恵子「トランプ大統領の特徴というのはどこまでが本気でどこまでがブラフなのかというのがよくわからない点です、これがわからない事自体がトランプ大統領にとっては大事な戦略ですね、完全にやり込めてしまうということではなくて日本から最大限の譲歩を引き出す。」

ナレ「果たして、トランプ氏の胸の内は、28日から大阪で開かれるG20サミットでは3ヶ月連続となる日米首脳会談も予定されています。」

VTRをうけてスタジオでは以下に朱記したやりとりが取り上げられた。

"小川彩佳「日米安保条約の破棄に言及したということですが、どこまでが本気でどこまでがブラフなのか。」

星浩「そうですね、まあ揺さぶりなのでしょうね。駐留米軍経費をもうちょっと日本に払わせたいというのが狙いだと思いますが、ちょっとまず確認しておきたいのが日米安保条約というのは別に不公平な条約ではないんですね。アメリカ側が軍の展開というそのリスクをして、払って日本はコスト、基地の提供というコストを支払って補完関係にあるわけですから、別に不公平ではないんですけど、トランプさん考えてみると大統領選挙の公約、TPPとかそのパリ協定の離脱とかかなり実現しているんですね、同盟国にもうちょっと負担させるということはまだ実現していないので、これは本気で求めてくる可能性が高いですね。」

小川彩佳「条約に付属する地位協定のことを考えると逆の意味で不公平、不平等だということも言えますし、日本は思いやり予算という形でもうすでにかなり負担をしていますけれども、そこにさらに負担をしてほしいということなんですか。」

星浩「そうですね、毎年2000億円規模で払ってますしこれ以上はなかなか無理だということで日本はこの問題があんまり表面化しないようにしてきたんですけどもどうやら参議院選挙のあとには貿易交渉と並行して駐留経費の問題というのはかなり大きな問題としてでてきそうですね。」

小川彩佳「やはりそのあたりを引き出したいからこそ、このタイミングでの発信だということですか。」

このトピックに当てられた時間は 368 秒だった。

スタジオでは星キャスターが「まず確認しておきたいのが日米安保条約というのは別に不公平な条約ではないんですね。アメリカ側が軍の展開というそのリスクをして、払って日本はコスト、基地の提供というコストを支払って補完関係にあるわけですから、別に不公平ではない」と述べていたが、その一方で小川キャスターの「条約に付属する地位協定のことを考えると逆の意味で不公平、不平等だということも言えますし、日本は思いやり予算という形でもうすでにかなり負担をしていますけれども、そこにさらに負担をしてほしいということなんですか。」というコメントに対しては、それに同調する形で「そうですね、毎年 2000 億円規模で払ってますしこれ以上はなかなか無理だということで日本はこの問題があんまり表面化しないようにしてきたんですけどもどうやら参議院選挙のあとには貿易交渉と並行して駐留経費の問題というのはかなり大きな問題としてでてきそうですね。」と応えていた。

星キャスターが「まず確認しておきたい」と確認していたアメリカが軍の展開というリスクを、日本が基地の提供というコストをそれぞれ負担する補完関係があり不公平ではないというのが真実であるならば、条約に付属する地位協定であるとか駐留経緯の思いやり予算での負担ということも「基地の提供というコスト」でしかなく、地位協定や思いやり予算があるから「不公平だ、不平等だ」という話は全く当てはまらないはずであるが、星キャスターは小川キャスターのコメントに流される形で同調していて、結果としてスタジオではアメリカ側の不満は不当なものであるが、日本にとってこそ不平等不公平な条約だという議論が支配的になってしまい、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らして問題のあるものであった。

・内閣不信任案否決：結論→放送法上問題

内閣不信任案を提出と国会について以下に朱記したように取り上げられていた。

枝野幸男（立憲民主党代表）「安倍総理を始めとする内閣全体の不誠実かつ不見識極まる政治姿勢がすべての問題の根源にあることは改めて指摘するまでもありません。その責任は免れようがなく不信任に値するものであります。」

ナレ「野党側は年金、消費税に対する安倍政権の対応は無責任であり不誠実極まりないとして即刻の辞任を求める、としました。」

"ナレ「これに対し与党側は無責任選挙目当てなどと野党の対応を批判、安倍総理の実績をアピールしました。」

萩生田光一（自民党幹事長代行）「安倍内閣自民党はあの悪夢のような時代から日本を取り戻す、そのために 7 年間に渡り次の時代に誇りと希望をもたらす政治を前に進めてまいりました。安倍総理の外交手腕は例を上げれば枚挙に暇がありません、これほど世界を動かした総理大臣がかつていたでしょうか、皆さん。」 "

長妻昭（立憲民主党代表代行）「先ほど自民党の議員の方がここでいろいろおっしゃいましたけれども、自分たちはすばらしいの一点張り、お友達ばかりで誰も周りに問題を進言する人がいないのでしょうか。」

"ナレ「そして午後 4 時前、採決が行われました。」

議長「安倍内閣不信任決議案は否決されました。」

ナレ「不信任決議案は与党などの反対多数で否決されました。これにより国会は明日閉幕となり与野党は来月 4 日公示、21 日投開票の参院選に望むこととなります。」 "

スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返された。

"小川彩佳「一時は解散風が吹いていましたけれどもまあ解散はなしで参院選を迎えるということになりますね。」
 星浩「そうですね、まあ私もこの国会での解散はないんじゃないかなと見ていたのでちょっと一安心していたんですけども今回、国会の成績を見るとこんな感じかなと言う気がします。安倍総理のほうで統計不正がでましたし念願の憲法改正というのは進展しなかったという意味ではあまり成果がなかったし、やはりね解散のタイミングを狙ってはいたんですけども、結局その大義は見いだせなかったというのはまあ本人はちょっと不本意なところもあるかもしれません。」

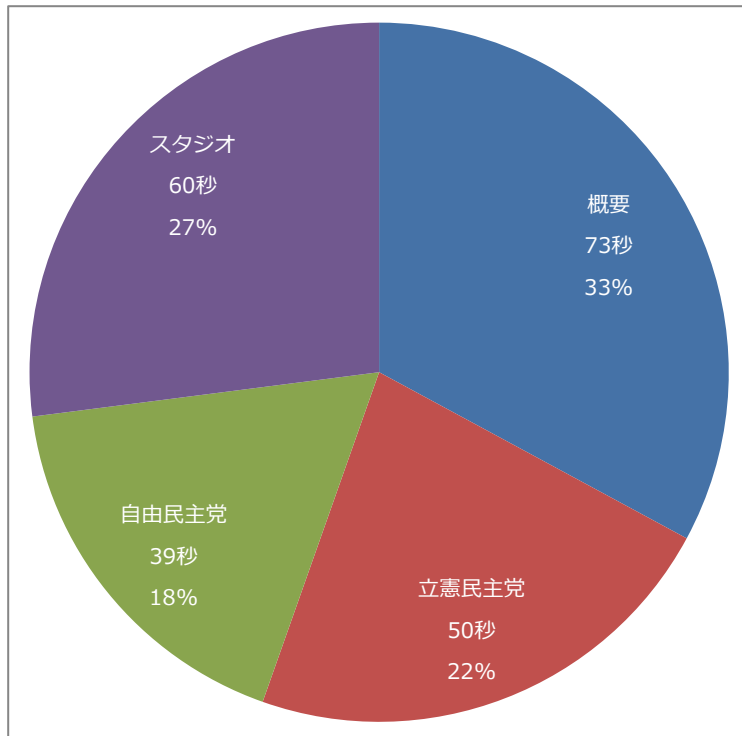
小川彩佳「総理としては解散に打って出たかったわけですね。」

"星浩「一方、野党側はですねやっぱりちょっと追求がね、今一つ低調だったし参議院選挙の一本化がちょっと遅れましたし衆議院の候補者擁立も遅れてましてちょっとそこは、与党から足元を見られたところがありますね。」

小川彩佳「うーん予算委員会が開かれなかったというのもありますけれどね。」

星浩「そうですね、まあ、これで参議院選挙で一挙に与野党の勝負ということですね。」

このトピックに当てられた時間は 222 秒で、概要、立憲民主党、自由民主党のそれぞれを取り上げた場面、スタジオでのやり取りに大別され、時間配分及び比率は以下の通りであった。



与野党の対決ということであるが、野党で取り上げられたのは立憲民主党のみであり、その立憲民主党から枝野代表と長妻代表代行が取り上げられるという形で他の野党にとってはいささか不公平とも言える取り上げられ方であり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らすと問題であると言える。選挙も近い時期なので、こうした点には特に留意していただきたいものである。

・丸山穂高議員が一月ぶりに国会に：結論→特に問題なし

北方領土で酒に酔い、戦争で領土を取り返すことの是非に言及し、国会で糾弾決議を受けた丸山穂高衆議院議

員がおよそ一ヶ月ぶりに国会に姿を表したことが伝えられ、丸山穂高「北方領土を 70 年以上不法に占拠しているロシアに対して出すというならわかりますが私自身に出されるということは非常に遺憾です。」というコメントが取り上げられていた。このトピックに当てられた時間は 30 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・米中首脳会談：結論→特に問題なし

アメリカ政府高官は今週、大阪で開かれる G20 サミットに合わせ、トランプ大統領が中国の習近平国家主席と 29 日に会談する見通しだと明らかにしたとのが伝えられ、また、トランプ氏は滞在中、安倍総理やロシアのプーチン大統領とも会談する予定だということが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は 22 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・トランプ大統領が日米安保破棄に言及か

トランプ大統領が日米安保条約でアメリカの負担感を口にするというのは、アメリカの素朴な市民感覚の反映なのだろう。そして、それはアメリカが持っている交渉力に比すると不利な条件となっているのでは、という感覚なのだろう。

スタジオでは「公平や平等」ということがキーワードとして上がっていたが、当事者間の取り決めごとである以上、条件の公平性や平等性よりも重要なのは双方が合意に至るか、という話であり、その条件がどうなるかというのは詰まる所交渉力次第であり、交渉力のある方がより有利な条件を手繰り寄せることができる、というだけのことであり、「公平や平等」というのは本質的にはあまり重要ではなく、日本にとって不公平や不平等であるなら、もう少し有利な条件を引き出せるよう交渉力をつける以外にはないのではなかろうか。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年6月26日
出演者：星浩、小川彩佳、山本恵里伽、村瀬健介、石井大裕		
ゲスト：森田正光（気象予報士）、東友美さん（町田市議会議員、X ジェンダーを公表して活動）		
検証テーマ：7月21日投開票の参院選へ		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和初の台風か ・女子中学生の監禁で担任教師を逮捕 ・7月21日投開票の参院選へ ・X ジェンダー ・芸能人の闇営業問題 ・千葉県野田市の虐待死事件で母親に猶予判決 ・「大崎事件」で最高裁が再審を認めず ・スポーツ報道 ・【異論・反論】先生の労働時間 		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨		
<p>・7月21日投開票の参院選へ：結論→問題あり</p> <p>参院選に向けて以下に朱記したVTRが取り上げられていた。</p> <p>"ナレ「通常国会は150日間の会期を終え、今日、閉幕しました。」</p> <p>議長「これにて散会いたします。」</p> <p>ナレ「この国会では幼児教育を無償化する法律や親による子供への体罰を禁止する法律など、政府提出の54法案が成立しました。参議院選挙を控え政府は提出する法案の数を絞り、その数は2000年以降二番目の少なさです。」</p> <p>"ナレ「こうした中、政界の引退を決断した議員がいます。」</p> <p>アントニオ猪木参院議員「最後の、元気ですか？、まあ、ちょうど体調も壊したものですから、結構最後の方、大変でしたけれども、元気を売り物が、元気を売れなくなっちゃった。」</p> <p>ナレ「76歳となったアントニオ猪木氏は体調不良などを理由に来月の参議院選挙には出馬しないということです。」</p> <p>"ナレ「その参院選に向けた準備が着々と進んでいます。」</p> <p>玉木雄一郎（国民民主党代表）「ガンバロー、ガンバロー、ガンバロー」</p> <p>自民党議員「勝つぞー、勝つぞー、」</p> <p>"ナレ「安倍総理は夕方の会見で参院選の争点に憲法を据える考えを示しました。」</p> <p>安倍総理「憲法の議論すらしない、政党を選ぶのか、議論を進めていくその政党や候補者を選ぶのか、それを決めていただく選挙である、と。」</p> <p>ナレ「また、年金問題について野党を牽制。」</p> <p>安倍総理「具体的な対案を、対案も無きままにただ不安だけを煽るよう案無責任な議論は決してあってはなりま</p>		

せん。」 "

"ナレ「対して、立憲民主党の枝野代表は。」

枝野幸男（立憲民主党代表）「暮らしの安心を回復させる選挙にしていかなければならないと思っています。」

ナレ「年金と老後資金の問題を参院選の大きな争点に掲げ与党側との対決姿勢を強調しました。」 "

"ナレ「一方、崖っぷちに立たされているのが社民党です。」

又市征治（社民党党首）「わが党が 1 票でも多く勝ち取って 2% をクリアして、議席を複数、しっかりと撮っていく。」

なれ「参院選で比例代表の得票率 2% 以上などの条件を満たせなければ公職選挙法の政党要件を失うこととなります。」 "

ナレ「参院選挙は来月 4 日公示、21 日投開票の日程で行われます。」

またスタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り返し上げられた。

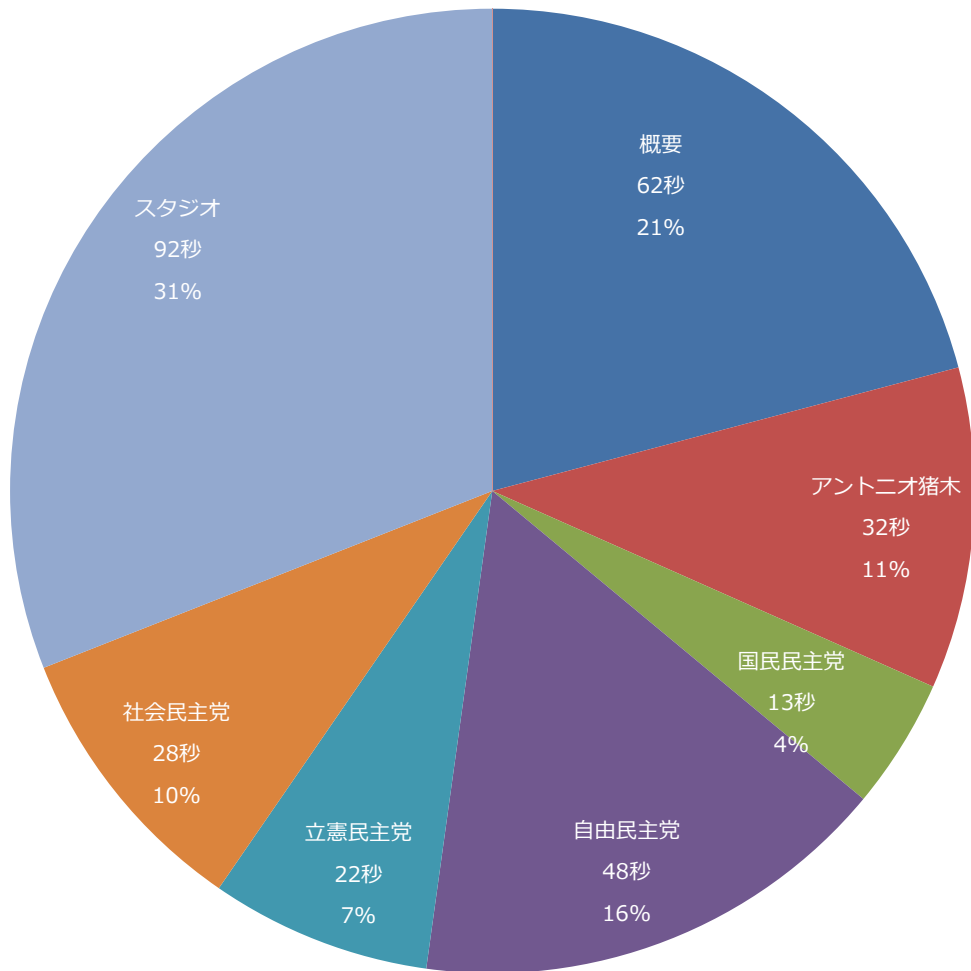
"小川彩佳「国会が終わりました、事実上参院選スタートということですがけれども、今日、夕方、安倍総理が会見しました VTR に出ているところ以外で星さんがちょっと気になったところは。」

星浩「そうですね、私、その安倍総理が冒頭ですね、農林水産業についてかなり実績をアピールしたんですね、実はね、この参議院選挙のポイントは与野党が一騎打ちになる一人区なんですね。いずれもこれはね、農業水産業盛んなところですので、安倍総理もそのへんをアピールしようということで安倍総理も気持ちは一人区の攻防ということに行ってるという感じはしましたね。」

小川彩佳「なるほど、参院選の改選議席は 124 でそのうち 32 が一人区、これが非常に重要。」

星浩「そうなんです、まあ 32 なんですけれどもここで勝つと全体でも勝つ、というのが、今までのパターンなんです。ちょっと過去のケースを見てみますと、その 12 年前、安倍総理が第一次安倍政権のときは 6 議席しか取れませんでした、惨敗してその秋にはもう安倍総理は退陣になるということがありました、逆に 6 年前は 29 勝もしまして圧勝をして長期政権の足場を作ったということでこの一人区の攻防が全体の勝敗を分けるということなんです。まああの一人区、地方が多いですのでアベノミクスは大都会だけを繁栄してるけれども地方には及んでいないという議論もありまして、そういう意味ではアベノミクスの地方に対する評価ということにもつながって、まあ政策論争にもなるということでは注目していいのかなと思いますね。」 "

このトピックに当てられた時間は秒で概要を伝えた場面、アントニオ猪木、国民民主党、自由民主党、立憲民主党、社会民主党のそれぞれを取り上げた場面、スタジオでのやり取りが繰り返し上げられた場面に大別されたが、その時間配分は以下の通りであった。



政界引退を決めたアントニオ猪木氏は別にしても今回取り上げられた政党で自由民主党、立憲民主党、社会民主党についてはそれぞれ意気込みを語る場面や実際の発言が取り上げられていたが、国民民主党については頑張ろうコールが取り上げられただけであり、時間配分の上からも、また取り上げられたシーンの質という点からも、他の三政党と比べると扱われ方が非常に軽いものであり、放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」という点に抵触するものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

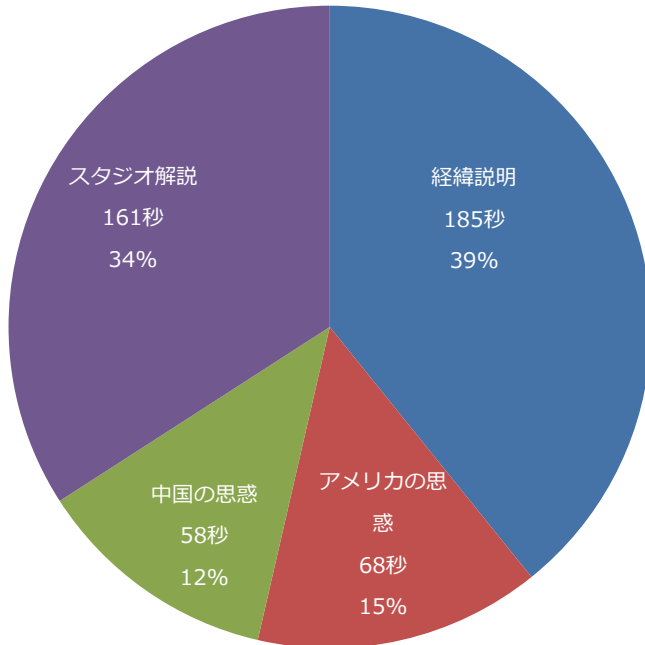
NEWS23 週刊報告 詳細版

検証者所感

特になし

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送：2019年6月27日
出演者：【キャスター】小川彩佳、山本恵里伽、星浩、石井大裕		
検証テーマ：大阪 G20、米中貿易摩擦		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風 3 号が本州に接近中 ・大阪 G20 ・米中貿易摩擦 ・スリムクラブ無期限謹慎 ・英で男女ステレオタイプ広告禁止 ・newstories <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の動物園から猿逃走 ・平塚市海岸で下半身ない遺体発見 ・JOC 新会長に山下泰裕氏 ・小 1 女兒が意識不明重体 ・スポーツ報道 ・#異論反論 objection 「職場で G パンありかなしか」 ・天気予報 		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪 G20→結論：放送法第四条第一項二号に抵触。 <p>今回は大阪で開かれる G20 サミットの注目点について主にアメリカと中国の二国にスポットを当てる形でそれぞれの思惑などが報道された。今トピックに充てられた報道時間は 472 秒で、経緯説明・アメリカの思惑・中国の思惑・スタジオ解説に焦点があてられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。</p>		



報道の内容は以下の通り。

小川「いよいよ明日、G20 大阪サミットが開幕します。こちらの 20 の国と地域の首脳が一堂に会するわけですが、なんといっても世界中が注目するのはこちらの二つの大国、アメリカと中国ですね。世界経済に大きな影響を与える貿易摩擦について何らかの合意は得られるのでしょうか。両首脳は今日大阪に到着しました。」
ナレーター「G20 の主役、アメリカのトランプ大統領は今日大阪の伊丹空港に到着しました。G20 のために今日から 4 日間通行止めになっている阪神高速道路をトランプ大統領の車列だけが走り抜けていきます。沿道からの歓声に手を振り、トランプ氏は宿泊先のホテルへと入って行きました。」

レポーター「会場へと通じる道路で今検問が行われています。警察が大勢集まって生まれという旗をだしていますね。」

ナレーター「今回 G20 の会場となるのは大阪湾に面した人工島にあるインテックス大阪。周辺では警察官 3 万人体制の限界な警備態勢が敷かれ、大阪市内の公立の幼稚園、そして小中高校はすべて休校となっています。一方国際メディアセンターでは世界から集まる報道陣に、大阪の味たこ焼きとお好み焼きでのおもてなし。」

カナダ人記者「すべてが美味しい。飛行機で持ち帰りたくらい。」

ナレーター「各国の首脳も続々と大阪入りしています。ホスト役の安倍総理は EU、アルゼンチン、シンガポールなど各国の首脳と次々に会談を行いました。」

安倍総理「日本は議長として意見の違いよりも一致点や共通点を見いだしていきたいと思えます。」

ナレーター「ただ一筋縄ではいかなさそうなのがやはりアメリカです。トランプ氏は大阪に向かう際、各国にこうけん制しました。」

トランプ大統領「これから日本の大阪へ行く。アメリカを利用してきた多くの国と会う。しかし、もうそうはさせない。」

ナレーター「矛先は日本にも向かっています。日米安保条約は不平等だと改めて不満を表明しました。」

トランプ大統領「我々が攻撃されても日本は我々を助ける必要が全くない。彼らはソニー製のテレビを見ているだけだ。」

ナレーター「この問題をてこに貿易交渉の譲歩を迫る狙いがあるとみられています。トランプ氏は到着している中国との貿易交渉にも強気の構えです。」

トランプ大統領「中国経済は破滅に向かっている。合意したがっているのは中国の方だ。」

ナレーター「そのうえで G20 で行われる習近平国家主席との会談で、貿易交渉が合意に至る可能性はあると話しました。一方の習主席。今夜七時半過ぎから安倍総理との会談に臨みました。習主席が来日するのは 2013 年に主席になって以来初めてのことです。」

安倍総理「日中関係は完全に正常な軌道に戻りました。習近平国家主席と手を携えて、日中新時代を切り開いていきたいと思えます。」

習近平国家主席「安倍首相と再度をお会いできてうれしく思います。中日関係は新たなスタートラインに立っています。」

ナレーター「日中関係が新たな時代に入っていることを印象づけた二人。中国側はアメリカとの貿易交渉をにらみ、日本の協力を得たい思惑もありそうです。習主席はアメリカの自国第一主義をこうけん制しました。」

習国家主席「多国間主義と自由貿易を守っていくという明確なメッセージを発し、世界経済の発展に向けた原動力となることを期待します。」

小川「習主席と安倍総理は会談の後、先ほどまで夕食を共にしていたということなんですね。」

山本「日中首脳会談ではどのようなやりとりが交わされたのでしょうか。大阪から中継でお伝えします。記者の延広さん。」

延広記者「融和ムードで始まった両首脳の会談の冒頭、このような印象的なやりとりがありました。」

安倍総理「来年の桜の咲くころに習近平主席を国賓として日本にお迎えし。」

延広記者「これに習主席はいいアイデアだと思うと述べ、前向きな姿勢を示しました。そのうえ先週行われた中朝首脳会談でも、金正恩党委員長に日本の立場を伝え、拉致問題を含めた日朝関係の改善に支持を表明したということです。さらに習主席から激しさを増す米中貿易交渉の現状について説明があり、安倍総理は明後日の米中首脳会談の前に対話を通じた解決をと述べたということです。以上大阪でした。」

小川「はい、まず日中首脳会談は和やかなムードだったということですね。」

星「そうですね。実は習近平さんが一番頭を悩ませているのは香港問題なんですね。この問題で欧米から集中砲火を浴びるんじゃないかと思って心配しているわけなんですね。そこで議長国の安倍総理に対して、あまりこの問題で紛糾しないように頼みますよということなんですね。それと相まって日中首脳会談は融和ムードに、友好ムードになったということですね。」

小川「ここで日本とは事を構えたくないということですね。一方あすの日米首脳会談はトランプ大統領の日米安保に関する発言でかなり緊迫したムードになってきているのでしょうか。」

星「日米安保が片務的だというのはトランプさんが 30 年前から言っていることなんですよ。ここにきて参議

院選挙の後に日米の貿易交渉で農産物、特に牛肉の関税を下げろというプレッシャーをかけてきているので、その牛肉の問題で安保問題を持ち出して来ているという駆け引きの問題ですよ。これまで日本の政権というのは、日本は憲法があるから海外での武力行使はできませんよということで、貿易と安全保障の問題とは分けて考えましょうということを書いてきたんですね。安倍総理は憲法改正を掲げているわけですが、果たしてトランプさんにどういう説明をするのか。ここはトランプさんへの説明と同時に日本国民への説明も必要だと思いますね。」

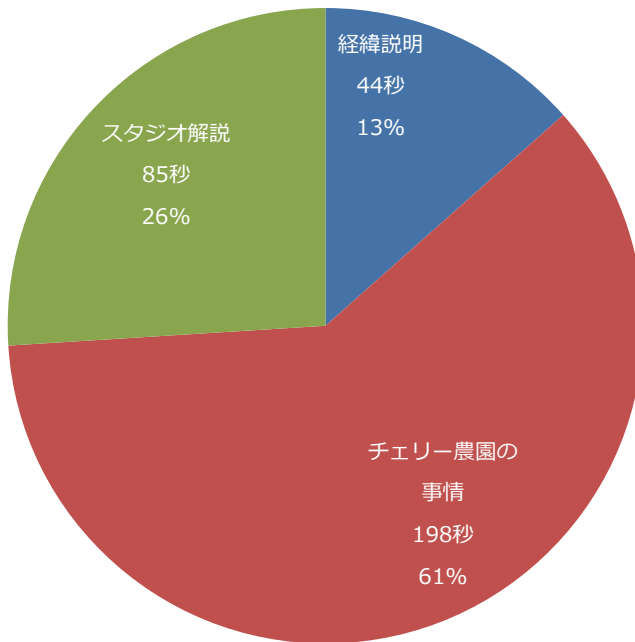
時間配分はアメリカと中国の思惑それぞれを比較すると公平といえる配分となっている。

しかし、スタジオ解説の発言の中に問題が見られた。スタジオ解説の中で星キャスターは次のように述べている。「これまで日本の政権というのは、日本は憲法があるから海外での武力行使はできませんよということで、貿易と安全保障の問題とは分けて考えましょうということを書いてきたんですね。安倍総理は憲法改正を掲げているわけですが、果たしてトランプさんにどういう説明をするのか。ここはトランプさんへの説明と同時に日本国民への説明も必要だと思いますね。」この発言を素直に聞けば、憲法改正を志向する政治家は「貿易と安全保障の問題を分けて考え」ることはできないと聞こえる。しかし、自民党は結成以来、憲法改正を綱領の中に盛り込むなどしている。また、「日本の政権」を長らく担ってきたのは自民党であることは事実である。つまり、これまで政権を担ってきた自民党の政権は改正を志向しながら「貿易と安全保障の問題を分けて考え」る論理を利用してきたと言える。安倍首相のみその論理が適用できないとする星キャスターの発言は事実とは言えず、誤解を招く発言である。

今トピックの中では放送法第四条第一項三号「報道は事実を曲げないですること」に抵触している。

・米中貿易摩擦→結論：放送法第四条の見地から問題なし。

今回は、米中貿易摩擦の影響を受けるアメリカンチェリーを生産している農場の実情を取材する形で貿易摩擦の問題が報じられた。今トピックに充てられた報道時間は327秒で、経緯説明・アメリカンチェリー農場の実情・スタジオ解説に焦点が当てられる内容であった。それぞれの時間配分は以下の通り。



報道の内容は以下の通り。

小川「さて今回最も注目されるのは米中の首脳会談です。貿易摩擦の行方を占うということになりそうですけれども、その貿易摩擦の影響を強く受けている果物があります。それは食べごろを迎えているアメリカンチェリーです。アメリカの生産現場取材しました。」

ナレーター「シアトルから車で2時間半の場所には白い鳥よけのネットに覆われたチェリーの木々が並んでいます。今がまさに収穫の時期ということで、農家の忙しさはピークを迎えていました。」

レポーター「バケツにいっぱいに詰められたアメリカンチェリー。この農場ではバケツ六千杯分のチェリーをわずか1日で収穫するという事です。」

農場関係者「これでチェリーの大きさを測ります。大きいほどより高く売れるからです。」

ナレーター「こちらの農家の自慢は特大で甘いチェリー。日本では売値で1キロ当たり一万円の値がつく高級品です。この農家では収穫したチェリーの8割を海外に輸出していますが、中でも最大の取引先は中国です。この日は箱詰め作業が行われるということで、中国からもバイヤーが訪れていました。案内するのは中国向けの出荷担当で中国出身のチャンさんです。話題になったのは米中貿易摩擦の関税でした。」

チャン氏「アメリカ政府が何をするかは予測がつかない。」

ナレーター「去年関税が課されたチェリー。その後中国での価格は1.6倍に跳ね上がったということです。関税の影響でこれまでは右の箱いっぱいを買えたチェリーが、同じ値段でこの大きさに。チャンさんは去年チェリーの大幅な値下げに踏み切りました。」

チャン氏「少なくとも30%下げました。出荷量を保つためにね。」

ナレーター「今年も収穫シーズンが始まったばかりにもかかわらず、バイヤーから値下げの交渉を迫られていま

した。」

"チャン氏「別の品種であれば少し残っています。5ドル値下げしてもいいと上司は言っています。」

バイヤー「5ドル下がるといくらになるんですか。」

チャン氏「計算してみます。」"

ナレーター「一方のバイヤー側も頭を悩ませています。」

バイヤー「今の中国市場の価格はひどいものです。どれくらい買うか計画はありますが、高い関税のせいでしばらく様子見ですね。」

ナレーター「ここワシントン州では去年、貿易摩擦のせいで中国向けのチェリーの輸出量が38%減り、輸出全体では二千億円以上落ち込みました。この週末行われる米中首脳会談。貿易摩擦の解消につながるか注目されていますが、チャンさんは。」

チャン氏「合意は現実的には難しいでしょう。トランプ政権は合意を急ぐ理由がありません。大統領選で頭がいっぱいだからです。」

ナレーター「チェリーを巡る米中双方からの嘆きの声は、トランプ大統領らに届くのでしょうか。」

小川「アメリカンチェリーに影響が出ているということですが、日本企業にも米中貿易摩擦は影響してくるからです。今回の米中首脳会談も注目ですね。」

星「実はですねアメリカと中国両方とも簡単には引き下がれない構図がありまして、トランプさんは当初は関税を上げると脅しをかけて中国が農産物を一杯買ってくればそれでいいかなと思っていたんですが、ここにきてボルトンさんは貿易交渉の強硬派になっていきますし、トランプさんのライバルである民主党も人権の問題で強硬な姿勢を示していますので、トランプさんもちょっと引き下がれないというところですね。」

小川「なかなか譲歩というわけにはいかないと。一方の中国側にも事情があるということですか。」

星「そうなんです。交渉の中でアメリカが10億の輸出補助金というのはけしからんという話しになりまして、中国はこれは軍部とか共産党の立場からするとかなり大きな既得権益ですので、ここは譲れないということなんです。おそらく米中首脳会談では決着がつかないということで、しばらく期限を延期して事務レベルで話しをつづけようということになると思いますね。」

小川「週末に大きくがらっと動くということにはなさそうですね。」

今回はアメリカンチェリーの農場がどのような状況の中にあるかを取材する内容であったため、経緯説明に非常に近い内容であった。

今トピックは放送法第四条の観点から問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨
特になし。

検証者所感
特になし。

NEWS23 週刊報告 詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2019年6月28日
出演者：星浩、小川彩佳、山本絵里伽、石井大裕		
検証テーマ：G20 大阪サミット、日米首脳会談		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G20 大阪サミット開幕、米中首脳会談が明日開催予定 ・ 本日、日米首脳会談が開催される ・ 20歳の日本人大学生がチャイコフスキー音楽コンクールのピアノ部門で17年ぶりの入賞 ・ ハンセン病訴訟、家族に対しても国の責任を認める判決が下る ・ 次回米大統領に向け、民主党が討論会を開催、20名以上が出席 ・ 妻を殺害し、遺体を切断した夫が出頭 ・ 俳優の高島忠夫さん死去 ・ 育休取得で関連会社に出向されたとして大手スポーツ用品メーカー社員が会社を提訴 ・ 沖縄市の動物園からサル10匹が逃走。残り4匹が未捕獲 ・ ロシア人の自称アーティストが赤坂御用地に落書きしたとして逮捕 ・ カメラがとらえたひき逃げの瞬間 ・ スポーツ報道 ・ 天気予報 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G20 大阪サミット：結論→特に問題なし 今回の報道は、本日より G20 大阪サミットが開幕したこと、および翌日の米中首脳会談に向けた展望についての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 320 秒だった。 なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 ・ 日米首脳会談：結論→特に問題なし 今回の報道は、本日 G20 大阪サミットに合わせて日米首脳会談が開催されたことについての報道であり、このトピックについて当てられた時間は 528 秒だった。 なお、今回は対立点や論点などは特に見られなかった。 		
<p>最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨</p> <p>特になし</p>		

NEWS23 週刊報告 詳細版

検証者所感

特になし